

二〇一五年 七月

## 「今月の言葉」と「今月の聖語」についての紹介

### 今月の言葉

まんざい にんじん  
いまだ万歳の人身を受けたりといふことをきかず、一生過ぎやすし。

『御文章』

この言葉は、浄土真宗の第八代門主の蓮如上人が著した『御文章ごぶんしょう』に書かれている内容です。意味は、「いまだ人が一万年の寿命を受けたということを聞かない。一生はすぐに過ぎてしまおう。」ということですが、

「一生過ぎやすし」と言われたところで、なかなかピンとこないかも知れません。しかし、身近なところで考えてみると、今日から七月に入ります。つまり、二〇一五年も後半に入りました。早いものだと感じないでしょうか。みなさんの日常のなかにも「もう過ぎてしまったか」と実感できる場面がきつとあるはずですが。その延長にあるのが「一生過ぎやすし」なのではないかと思えます。私たちのいのちには限りがあります。一万年の寿命もありません。限られたいのちだからこそ尊いものだと言えます。日々の過ごし方や時間の使い方、そして私たちのいのちは有限だということを改めて考えさせられる言葉だと思えます。

### 今月の聖語

身について慎むのは善い ことばについて慎むのは善い 心について慎むのは善い

『ダンマパダ』

仏教では、人の行為（業）は「身業（しんごう）・「口業（くごう）・「意業（いごう）」の三種類であると説きます。つまり、身体による行為、口から発する言葉による行為、そして心の動きを行為とします。釈尊は、人間のこの三つの行いについて慎むことは善いことであると説きます。この「慎む」ということは、私たちの生活のなかで、つい忘れかけていることではないでしょうか。例えば、自己中心的で周りの人を傷つける行動や発言。また、自分の思う通りにいかないと込み上げてくる怒りの心。そのような自身のあり方を省みることを教えてくれる言葉だと感じます。

自分自身の姿を仏陀の教えという鏡を通して、一度見つめ直してみましよう。慎みのある行為、実践していきたいですね。

合掌